

令和 7 年 5 月 宝塚市長定例記者会見

日 時 5 月 27 日（火）15 時 00 分から **場 所** 特別会議室

出席者（市） 市長、副市長、市民交流部長、市民交流部総括担当及びきずなづくり担当次長、市民交流部市民相談課長、企画経営部広報課係長、企画経営部政策推進担当課長、消防本部消防保安室総務課長、同係長

出席者（記者クラブ） 朝日新聞社、神戸新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

1 発表案件

(1) 「市民と市長の対話ひろば ～もりりんと語ろう、宝塚市の未来～」を開催

（市民相談課）

【質疑】

（記者） もりりんという愛称について、ご自身の考えは何かありますか

（市長） ずっともりりんと呼ばれてきたということもありますし、今は結構どこの市長さんも愛称で、市民の皆さんにとって親しみやすくというところがありますので。市民と市長の対話ひろばについては、格式張った市役所がやるような形ではなくて、ハードルを下げて皆さんに参加していただきたい。もりりんという愛称が、ハードルを下げることになるのかどうか分かりませんが、その一助になればというのが意図です

（記者） もりりんという呼び名は中学の頃からですか

（市長） 小学校からです

（記者） 施設定員が 150 人とか 200 人ということですが、以前の会見で本音を聞けるのは 10 人ぐらいが適切な規模だと発言されたこともあったと思います。その発言と今回の 150 人、200 人との整合性はどのようにお考えですか

（市長） 150 人とか 200 人というのは、あくまで施設の定員なので。いったい何人集まるかはちょっと想像がつかないので、ある意味実験的にと思っています。その中で、確かに 10 人 20 人であれば突っ込んだ話ができるのかなと思いますし、一方で、多くの方がいらっしゃったら、それはそれで様々なご意見が聞けるのかなと。確かにディスカッションとしての人数というのはありますが、始めるにあたってハードルを低くして、市民の皆さんに来ていただくことが最も重要だと思っていますので、まずはこの形で進めさせていただきたい。ただ、4 回ありますので、もしかしたら順を追うごとに突っ込んだお話もできるかもしれませんし、毎回来ていただくような方もいらっしゃるかもしれませんし、これはやってみないと分か

らないと思っています

（記者）時間は2時間ということですが、どのような形式をお考えですか

（市長）まず冒頭、私からそれぞれの案件について、20～30分ぐらいを目途に説明をさせていただく時間をいただき、その後は、私自身がファシリテーターとなつて、できればその案件についてのご質問やご意見等をいただきながら、対話の形を取っていこうかなと思っています

（記者）イメージとしては、市長ご自身がテーマについて説明し、司会的なファシリテーターも務めるということですね

（市長）はい、その通りです

（記者）今後は、11月、1月、2月に予定しているということですが、それぞれどんなテーマをしたいとか、何かお考えはありますでしょうか

（市長）この最初の2つの中でどんなご意見が出るのかを踏まえて、決めていこうと考えていますが、どこかの時点で財政再建に関しては取り上げたいと思っています。ただ、市民の皆さんの関心も大事ですので、まずはこの2つを進めながら相談させていただこうと思っています

（記者）市側から出席するのは市長だけでしょうか

（担当）担当部署からも何人か出席させていただきたいと思っています

（記者）担当の部署の方も、内容によっては対話に参加されるということでしょうか

（担当）はい。例えば、8月でしたら市立病院についてのテーマを設定していますので、市立病院を主に担当している部署の職員数名も、市長と一緒に行かせていただくとお思います。メインは市長がお答えすると思いますが、場合によっては職員がお答えし、一緒に市民の方と対話できればと思っています

（記者）もりりんという呼び方は、市長の意識の中で市長と呼ばずにもりりんと呼んでほしいといった強い思いがあるのでしょうか

（市長）様々な世代や考えの方がいらっしゃいますので、私自身はそれぞれが呼びやすい形で呼んでいただくのがいいのかなと思っています。ただ、市長というのはあくまで役割であって、市長が偉いというわけではなくて、単なる市長という役割を私がしているということです。もし私の名前が思い浮かばない場合は、市長って言いやすいのかなとは思いますが。ただ、もりりんという名前と呼んでいただいてもいいですよということで、そのハードルが下がるのであればいいのかなと思っています

（記者）それは、市役所内でもいいのでしょうか

（市長）市役所内では、あまりもりりんと言わないのですが、もちろん呼んでいただいて

も結構です。先ほども申し上げましたが、私の名前を覚えてない方もいらっしゃるかもしれないので、市長と呼んだ方が分かりやすい方もいらっしゃるのです。私からこう呼んでくださいということは、むしろ言わないつもりです

（記者）対話の場で、どのような質問が出て市長がどう答えたとか、どういうことが検討課題に上がったかということを、来年度の政策とかではなくて、直近でフィードバックを行うことは考えていますか

（市長）基本的にはテーマがありますので、そのテーマに関しての内容についてご議論させていただけると思っています。最初のテーマに関して言うと、私の市政の方針という形になりますので、私自身がフィードバックを受け止める形になります。市立病院のあり方に関して言うと、その担当課もいますのである程度はその場で解決できるところはしたいなと。ただ、受け止められない部分に関しては、責任を持ってお答えするところまですると、込み入ったプロセスになっていくので、それはどうなのかなと思っています

（担当）事務的な話ですが、議事録のような一言一句を公表することは考えていません。ただし、どういった意見が出たかといった議事の概要については、後日ホームページ等で公開するつもりです

（記者）広報誌とかではなくて

（担当）今のところはホームページで考えています。あとは、note でも周知していくことを考えています

（記者）対話の形式について、市長を中心に車座になって参加者と対話をするイメージでしょうか

（市長）それを願っているのですが、プレゼンすることを考えると席をガラガラ変えるのはどうかと思いますので、まずはスクール形式がよいかなと考えています。ただ、人数次第では違う形式も入れていくことで、よりフラットで話しやすい雰囲気を作れないかなと。実験的に色々させていただこうと思っています

（記者）趣旨としては、市の方向性を市民に伝えていくところに重きを置いているのか。それとも、そこで出た意見を政策に反映させていくところに重きを置いているのか。またはその両方を重視しているのでしょうか

（市長）両方重視しています。「市民の皆さんどうですか」と言われてもなかなか難しいでしょうから、材料としてこういう方向を考えていますと伝えることで、色々な意見を出していただき、その対話の中で方向性が調整されて、私たちとしてはこうだよねというところが作られていくのかなと。両方ではあるものの、最

終的には自分事にできるというところが、決着点なのかなと思っています

(記者) 市民の方への参加の呼びかけ手段について、何か考えていますか

(担当) ホームページや広報たからづかなど一般的な市がやっている広報や SNS の活用のほか、市内に設置している広報板にチラシを掲示するなど、色々な方法で呼びかけをしたいと思っています

(記者) 選挙でいうところの各地域に動員をかけるような考えはありますか

(担当) 気軽に色々な人がお越しいただける場になってほしいと思っていますので、今のところそこまでは考えていません

(記者) では、集まりが悪くなる可能性もあるということですね

(市長) そうですね。まずは自然な形で集まっていただくのがいいのかなと思っていますので、その中で周知が弱かったということであれば、反省点として次回以降に活かしていきますが、無理に人数合わせを行うことは考えていません

(記者) 議事録の公開の話がありましたが、動画での公開は考えていますか

(担当)今のところは考えていません。おそらく色々な発言が出てくるとと思いますが、発言した人の顔が映ってしまうかもしれないとか、誰が言ったとかいう話になる恐れがありますし、編集作業についての課題もあります。これから始めていく事業ですので、回を重ねながら研究しつつ、今後必要であれば検討していきたいと思っています

(記者) テーマに沿わない質問をしたい市民の方もいると思うのですが、そのような時間を確保するのかどうかということと、そういう不規則発言を強引にした人に対して、どのような対応をするのかお考えはありますか

(市長) 文脈によるのかなと思います。基本的にはご意見を伺う場ですから、そのテーマに沿ったご意見をいただきたいところですが、否定するものではないというか。ただ、担当課がない場合は、積極的に返事ができない可能性もあると思っています。不規則のご意見をいただくのは、それはそれでご意見かなというふうに思っています。ただし、特定の方が長い時間話すようなことは、機会均等ということを考えて避けたいと思っています

(記者) 収録した音声をエフエム宝塚などで流すといったタイアップ企画的なものは考えていますか

(市長) 現時点では考えていません。まずはこの形式でやってみようと思っていますので。先ほどの動画の話と少し関連するのですが、私たちはいいですが、来てい

ただ市民の方にとっては、むしろハードルを上げてしまう可能性もありますので。まずはこの形式でやってみて、この形式についてもどうお考えなのかも含めて、皆様のご意見をいただきたいと思っています

（記者）7月のテーマについては、市民の方がどのような街を望んでいるのかを市長としても聞きたいということでしょうか

（市長）その通りです。まずは最初ですから、全体的にどういう方向性で、この宝塚という街がどうあってほしいのかご意見をいただきつつ、私なりの考えをお示しできればと考えています

（次頁あり）

(2) 森市長が市の取り組みを動画で紹介する「もりりんの宝塚ナビゲート」の配信を開始

(広報課)

【質疑】

(記者) 1 回目が 6 月上旬に配信ということですが、2 回目までの更新の間隔についての考えをお聞かせください

(担当) 1 ヶ月に 2 回程度の配信を予定していますので、6 月上旬を始めに月 2 回程度発信していきたいと考えています。また、市長定例記者会見の案件以外にも、市民との対話の中で出てきた、特に市政について関心の高い案件などを動画で紹介できればと思っています

(記者) 基本的には記者会見と対話の場で出た案件の 2 本柱で進めていくということですね

(市長) そうですね。ただ、あまり形を決めずに、記者会見の場では一定公式に市としてお話をしなければいけません、もう少しハードルを下げて、今起こっていることでなくても、市に対して、これはどうなんだ、といった皆さんが疑問に思っているようなことはおそらく対話の中や私たちの日常会話の中にあるはずなので、それらのテーマや記者会見で発表するテーマの中で、割合は決めずに重要で優先順位が高いと思っていることから話していこうと思っています

(記者) お忙しいとは思いますが、そのような内容でしたら、週に 1 回とかの頻度でどんどん発信してほしいなと思います

(市長) ご意見ありがとうございます、ただし、動画の編集等、かなり労力がかかる話ですので、まずは月 2 回というところから始めさせていただいて、もし非常にこれいいですねという話になれば、我々としても考えたいです

(記者) 1 回目は何をするのかもう決めていますか

(市長) おそらく、この「もりナビ」の話とか、先ほど申し上げた「対話ひろば」の話とか、こういう機会がありますよということを紹介できればと思っています

(記者) 次は何か考えていますか

(市長) その次はまだ考えていません

(記者) 動画の撮影場所については、だいたい市長室で語りかける感じになるのでしょうか

(担当) 会見の案件を説明する場合は会見の場で撮影するなど、その時々に応じて撮影していこうかなと思っていますが、現時点で、ここで撮影するというところま

では決めていません

(記者) ショート動画中心ということですが、インスタライブや YouTube の配信といった、LIVE 配信的なものをされる予定はありますか

(市長) 今のところはありません。まずはショート動画の形での発信と、この定例記者会見の中での発表、そして対話の場で、どれぐらいできるのかなと。私たちもリソースに限りがありますので、全てのチャンネルを用意できればいいのですが、まずはこの3つの方向性を見て、市民の皆さんのご意見をいただいて考えていこうかなと思っています

(記者) 動画1本につき1件の内容について語るのでしょうか。それとも複数件取り扱うのでしょうか

(市長) 3分程度ですので、おそらく1つの内容になります。複数にするとこんな課題がありますという紹介で終わってしまうと思いますので

(次頁あり)

(3) 新たなふるさと納税返礼品を追加「圧倒的☆消防体験 ～未来の消防士は君だ～」

(企画政策課・消防本部総務課)

【質疑】

(記者) 6歳未満は別の体験を用意しているということですが、例えば、4歳と8歳の子どもがいる家族が参加する場合、どのような対応を想定されているのですか

(担当) そのようなケースでは、別の体験として、水消火器を使って炎の的に当てるゲームや、停車している消防車や救急車への乗車体験、子ども用のバッテリーカーへの乗車など別の体験を用意しています

(記者) その別の体験の時には、家族は離れ離れになるのでしょうか

(担当) いえ、そこはお子さんの安全管理も含めて、親御さんと一緒にやっていただく内容となっています

(市長) 来ていただく前提として、6歳未満はというお話をさせていただくのですが、実際にはご家族の意見を伺って、どういう組み合わせで行うのか相談させていただくことになると思います。ただ、原則として安全面を大事にしたいので、6歳未満の方は別体験でというのは外せないと思います

(記者) ふるさと納税の申込金額はいくらでしょうか

(担当) 1組3万円です

(記者) 定員が2組ということですが、先着順になるのでしょうか

(担当) はい、そうです

(記者) こういった消防体験をふるさと納税の返礼品にすることは、自治体として初の試みになるのでしょうか。それとも他の自治体で既に導入事例があり、それを参考にされたのでしょうか

(担当) 阪神地区では猪名川町が既に実施しているので、その事例を参考にさせていただきました

(記者) 猪名川町は毎回だいたい埋まっているのでしょうか

(担当) そのようです、人気があるようで。その他にも、大阪市や横浜市、南大阪消防組合などでもされているようです

(記者) 宝塚市消防では、はしご車は何台所有しているのでしょうか

(担当) 2台です

(記者) ということは、大規模な火災が発生して2台とも出動することにならない限り、1台は当日のイベントに使用しても大丈夫ということでしょうか

(担当) そうですね。万が一、火災が発生した場合は、代替日にお越しいただくことに

なと思います

（記者）ふるさと納税ですので、もちろん市外の方が対象ですよ

（担当）はい

（記者）例えば、市外の方が返礼品を受け取り、自分は利用せず宝塚市内の知り合いに譲ることは問題ないのでしょうか

（担当）問題ありません。寄附の対象は市外の方のみですが、参加自体は市民の方もしていただけます

（記者）盛況だった場合、今後市民向けに同様の企画を考えることはありますか

（担当）今回はふるさと納税という目的で実施していますので、同様の庁舎見学や体験を希望された場合、できる限りの対応はさせていただきますが、全く同じ内容での実施は難しいと考えています

（記者）この消防体験をふるさと納税の返礼品にすることは、市として今回が初の試みになるのでしょうか

（担当）はい、今回が初めてです

（記者）様々な職業がある中で、消防士に限定したのは何か理由があるのでしょうか

（市長）恣意的に選んだわけではなく、先ほど申し上げたように消防から発案があったためです。宝塚市として消防士になっていただきたい気持ちはありますが、それだけで人手不足が解消するわけではないので、他に何か思いがあるわけではありません

（記者）例えば宝塚らしさで言うと、未来のタカラジェンヌ体験とかはいかがでしょうか

（市長）ありがとうございます。1つのアイデアとして検討したいと思います。

（次頁あり）

2 その他

(記者) 初めての議会が開会中ですが、当初市長が懸念されていた議会との関係について、実際に議会で施政方針演説もされて、今どのような感想をお持ちですか

(市長) まだ議員の皆さんからご質問をいただけていませんので、どのような感じになるのかは私にも分からないところです。私たちとしても市役所一丸となって今回の補正予算、あるいは方向性に関しても詰めてまいりましたし、議会の皆さんともそれぞれの会派ともお話しさせていただいて、オール野党でやりましょうと。是々非々でご意見をいただき、本格的な政策論議ができればと思っています。何か気持ちが変わったわけではありませので、どんな議会になるのかなと期待半分、心配半分しています

(記者) 挨拶できていなかったという会派の皆さんには、もう挨拶はされましたか

(市長) はい、会派の皆さんとは何回か、どの会派ともお話しさせていただいています。ただ、それがどうなるかというのは。先ほど申し上げたように全ての会派とオール野党で政策論議ができればいいですねというお話しさせていただいていますし、そうなることを期待しています

(記者) 当初の不安は払拭されたと

(市長) いえ、どうなるかは私にも分かりませんし、不安な部分は勿論あるのですが、市役所一丸となって今回の補正予算、内容に関しては自信を持って提出していますので、その上でどんな質問が出てくるのかなというところです

(記者) 財政再建という大きな目標に向かって、車の両輪として一緒にやっていけそうでしょうか

(市長) そうですね。正直、本格的な財政再建を今回の補正予算で盛っているわけではないので、今回の補正予算がある意味試金石になるのかなと。議会の皆さんとどのような政策論議ができるのかという試金石だと思っています

(記者) 就任1カ月のコメントをいただけますか

(市長) 1カ月過ぎるのが早かったですが、優秀な市役所の職員に囲まれて楽しく仕事をさせていただき、充実した毎日を過ごしています。様々な会議にも出席し、新しい方ともお話をさせていただいて、より宝塚市の市政あるいは宝塚市そのものについて勉強させていただく機会になったと感じています。市政の内容についても、市の職員に教えてもらいながら、楽しく仕事をさせていただいています

(記者) 市長の仕事は就任前のイメージと比べてハードですか、それとも楽でしたか

(市長) 予想していたところかなと思っています

(記者) 極端に忙しいというわけでもないということでしょうか

(市長) はい。これも冗談でよく言いますが、病院で当直していた時代よりは、基本夜はお休

みさせていただきますので、そんなにしんどいわけではありませんが、かと言って休みはありませんので、なかなかしんどい仕事だなというところもございますが。最初のコメントに戻りますが、充実して楽しく仕事をさせていただいていると思っています

（記者）ネットを見ると、開かれた市長室とありますが、基本的には来たら誰でも入れる感じにしているのでしょうか

（市長）基本お断りするつもりはありませんが、私がいなかった場合や先約がある場合など、現実にはほとんど予定が詰まっています。ただ、イレギュラーな形でお会いすることもありますので、支援者かどうかで判断するのではなく、どんな方でも来ていただいてもいいですよという意味で、開かれたということです。できれば約束を事前にとっていた方がいいほうがスムーズかなとは思いますが、海外の事例が多いですが、オープンドアポリシーといって、例えばある1日は市民の皆さんに自由に来ていただいてもいいですよというポリシーを持っている首長さんもいらっしゃいますが、そういうのも1つありなのかなとも思いますが、まずは市民の方との対話の場の中で、皆さんがどう感じられるのかなと思っています

（記者）いずれは、誰でも来ていい日を設けるとか、現段階でそのような考えはありますか

（市長）それをすると、おそらく市政が滞ってしまうと思います。現実には、約束や会議など非常に多い状況ですので、1日空ける代わりに私が出向いて、月に4回、週1回そこに出て行くということが、おそらく時間の確保としては一番。それが、ある意味オープンドアポリシーなのかなと。むしろ来ていただくのではなくて私が出向き、そこにはどなたでも来ていただけますと。本来は人数制限等設けたくないものの、施設の定員があるため制限を設けざるを得ないのですが、基本は自由に来ていただきたいと思っています。どんなことが起こるのかなと担当部署は心配もしていると思いますが、リスクを恐れずに様々な市民の皆さんとお話ししていくことを、市として追及していきたいと考えています

（記者）選挙期間中から、市民の前に立って説明していくと話されていましたが、今回の会見で発表された対話の場や動画での発信以外にも、そういった取り組みを今後も加速していくお考えでしょうか

（市長）対話の場や動画での発信がこの形でいいのか、皆さんにとって本当にハードルが下がっているのかという考えがある一方で、もちろん、市民の皆さんとの対話だけが市長の仕事というわけではなく、意思決定をしたり、市役所の中でトップとしての役割を果たすことも大切な仕事です。そうした中で、対話の場と動画発信という2つの取り組みをどういうバランスで進めていくべきか、まずはそこをしっかりと考えていきたい

と思います

（記者）市長就任１カ月の中で、市長になったことを少し後悔したことはありましたか

（市長）ないですね。本当に心から楽しく仕事をさせていただいて、本当にいい仲間に出会って、本当に楽しいなと。もちろんこれからそうじゃない日々もあるかもしれませんが、充実して、楽しく仕事をさせていただいています

（記者）市長になってから健康を気にされるようになりましたか

（市長）できるだけ歩くようには心掛けています。あとは、食事をする機会がこれまでに比べて多いので、少し気を付けたいなと思っています

（記者）この１カ月で完全休養日はありましたか

（市長）１日か２日くらいはありました

以上